

# AIによる業務改善と刺さるマーケティング

AIを活用すれば、時間と労力をかけてきたデータ分析作業を自動化でき、高速化、高精度化が可能となる。美味しく、時短、かつ創意工夫を凝らしたメニューやレシピの開発、人の心を打つデザインを生み出すこともできる。

本セミナーではAIで製造業やマーケティングに切り込み、変革を起こす試みを紹介する。

**開催日時**：2023年4月26日（水）14:00～16:20

**セミナー形式**：MS-Teams（定員500名）講演30分+質疑応答10分

**主催**：バイオインダストリー協会

**企画協力**：バイオエンジニアリング研究会ダイナモ人財小委員会、Food Bio Plus研究会

**協賛**：日本生物工学会、後援：日本農芸化学会（いずれも予定）

**Coordinator**：緒方法親氏（(株)日本バイオデータ 代表取締役 東京農工大学 客員准教授）

## 14:05～14:45 AIによる歩留まり改善と品質予測

**緒方法親氏（株式会社日本バイオデータ 代表取締役）**

製造現場における歩留まり改善や品質予測の分野で、製造業へのAI導入が進んでいる。

AIを活用することにより、これまで明確でなかった不良原因を洗い出し、歩留まり改善につながった事例もある。

本講演では、発酵微生物食品の歩留まりを改善した事例を紹介したい。

## 14:45～15:25 料理×健康×時短で食生活を豊かに～AI活用の可能性

**談 莫東氏（アクセンチュア株式会社）**

昨今のAI事情を概観し、AIを食に活用した事例、同様の手法を他の製造業やマーケティング領域へ転用した場合の事例やアイデアなど、AIの豊かな可能性に切り込む。美味しく、時短、かつ創意工夫を凝らしたメニューやレシピの開発、服薬中の薬剤等を考慮したレシピ、近未来の食生活を健康かつ豊かにするアプリなど、身近な生活に役立つAI活用事例も紹介する。

## 15:25～16:05 商品デザイン制作のパートナー：デザイン評価・生成サービス『パッケージデザインAI』

**小川 亮氏（株式会社プラグ 代表取締役社長）**

AIやIoT、デジタルマーケティング、SNS、テクノロジーの進化など、マーケティングそのものが大きく変化している中、リサーチとデザインという二つの分野を掛け合わせ、お客様の商品やブランド、会社を強力に輝かせる事業を進めている。事業の一つ、パッケージデザインAIは1,000万人以上の学習データと東京大学・山崎研究室との共同研究で作られた評価AIで客観的な指標で結果が出せ、AIが評価と生成を繰り返し1時間で1,000案のデザイン案を創出する。使用可能な商品カテゴリーは全部で51種で、アルコール、飲料、化粧品・ヘアケア、食品、医薬品、衛生用品、ペット用品、コスメ、ヘアケア、洗濯洗剤、文具、ビジネス書などに対応している。本AIのしくみとサービス概要、活用事例について紹介いただく。

## 16:05～16:20 ディスカッション

**座長**：緒方法親氏（(株)日本バイオデータ 代表取締役 東京農工大学 客員准教授）

**MS-Teams参加**：JBAホームページよりお申し込みください。

**締切**：2023年4月24日（月）

**お問合せ**：(一財)バイオインダストリー協会（担当：橋本、岸本、矢田）